

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 828 februaro 2020

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

ENHAVO

ワン・ワールド・フェスティバル出展へ.....	木元 靖浩 1
JEI 文芸コンクール受賞のこと	佐藤 守男 2
第 68 回東海エスペラント大会	堀田 裕彦 2
楽しい作文教室 (102)	塚本 猛 3
Kajero Libervola: Provante esprimi malfacilajn aferojn facile— pri hipotezo de <i>Sapir-Whorf</i>	TAKEMORI Hirotoŝi 4
受賞の弁: 小坂賞内緒話	田平 正子 5
対訳: 源氏物語 第 35 帖 若菜下 (12)	紫式部 / belmonto 6-7
Kurantaj Vortoj (カーニバルほか)	7
国際色ゆたかに越年研修会	編集部 8
初心者のための語尾なし単語の使い方(84) ..相川 節子 8	
第 68 回関西エスペラント大会 Informilo	9-12
楽譜: Fluto de Verdaj Folioj (青葉の笛)	島谷 剛 13
ポリグロット・コンフェレンス (2)	瀬下 政也 14-15
La Movado: 各地でザメンホフ祭、ほか.....	15-17
訃報: 三澤 一弘さん	17
Vortkruca enigmo / 作文教室成績	18
ザメンホフ祭写真/作文教室課題/KLEG事務局だより	19
編集ノート	20

2月1日(土)と2日(日) 大阪市扇町

ワン・ワールド・フェスティバル出展へ

木元 靖浩 (関西エスペラント連盟会長)

例年、応援に来てくれる方々が多く、一般来訪者がブースの展示に近づけないような場面も見られます。また、ここで、久しぶりに出会った者同士の積もる話に花が咲く場面も見られます。しかし、エスペランチストの「実物展示と訪問者との対話」もエスペラントの何たるかを市民に知らせる「説明責任」だろうと思います。

ワン・ワールド・フェスティバルの枕詞に「西日本最大スペース! 世界につながる国際協力のお祭り」とあります。この場で他団体の方々と知り合いになるのもいいことだと思います。

隣の扇町公園では「みんなのキッチン」で、世界各国の屋台が出ます。「さかなクンのトークショー」もあるそうです。

有志の方々のお楽しみがてらの応援をお待ちしています。



関西エスペラント連盟 (KLEG) はこの度の第 27 回ワン・ワールド・フェスティバルに出展します。開催日は 2 月 1 日 (土)、2 日 (日)。場所は大阪市・北区民センター、カンテレ扇町スクエア、扇町公園。

KLEG は昨年度は「日韓共同開催エスペラント大会」に専念して参加せず、今回は第 6 回目の参加になります。例年通り、ブース展示とトークセッションに参加します。ブース番号は 57 番。トークセッションは 1 日 (土) 12:00-13:00 です。この機会に、三つ折りチラシを作成して、エスペラントと KLEG について、市民に認識を深めてもらいたいと思っています。



JEI文芸コンクール受賞のこと

佐藤 守男 (大阪府)

この度は文芸コンクールに初デビュー、初受賞でき、大変励ましを頂きました。最近が多言語同時通訳できる AI ロボットの出現で、エスペラントの役割が低下するのではないかと危惧しております。新聞記事で知ったのですが、ある NPO の試みで、日本とアフリカの小学生が通訳機を介して交流していることが紹介されていました。また、百貨店の販売員を外国人にも通訳として対応できる AI ロボットに任せるとか、ホテルや駅の案内係にロボットを活用することが検討されているようです。これからは、そういう時代が迫ってきているように思えます。

そこで AI にはかなうはずのない創造的な分野である原作文学に注目していました。そんな時、堀泰雄さんから呼びかけがあり、最近文芸コンクールのエスペラントの書き手が減ってきているので、みんなで押し上げようとの呼びかけがあり、それに素直に応じた訳です。

確かに最近日本大会や関西大会でも、文芸コン

クールに限らず、雄弁・朗読コンクールなども実施されなくなってきて大変残念に思っています。

ところで、JEI には文芸コンクールの募集要項 (内規のようなもの) があるようで、作品をメールで送ろうと思いい問合わせたところ、規定では紙で 4 部送ってくださいとのことでした。多分、審査は 4 人の方が担当されているのだらうと思います。今どきメールで受付不可というのは、多分規定はかなり古いものではないかと推察されます。

なお、吹田エスペラント会では最近の例会 (スカイプ) で、作文の練習に励んでいます。“Ne tiel, sed tiel ĉi!” の学習や諺を翻訳し合ったり、短くも表現に様々な多様性のあるものを比較し合ったりしています。こういう取り組みは文芸作品制作にも役立つように思えます。また、既出版されているエスペラント文芸書にも興味が出てきて、エスペラント相撲の際の目標にもしています。また、次の作品作りの構想をいろいろ考えるのも楽しいものです。多くの方が文芸コンクールに参加されることを期待しています。

第 68 回東海エスペラント大会

堀田 裕彦 (愛知県)

日時: 2019 年 10 月 26 日 (土)

会場: 「アートピア」(愛知県名古屋市) 第 3 研修室

参加: 19 人 (スカイプでの遠隔参加 1 人を含む)

東海大会は、東海地区有志の持ち回り。今年の担当は、名古屋エスペラントセンター。

9 時半、開会。湯浅典久が全体進行を担当。

午前は、第 108 回日本エスペラント大会実行委員会の公開会合。活発な討議となった。

午後、シンポジウム「2020 年代のエスペラント運動を語る」は、伊藤俊彦が司会。永瀬義勝がエスペラントを文化として愉しむことを基調講演。その後、田平稔が子供たちにエスペラントを伝えることを、山口真一が日本大会後の地域活動のあり方を、堀田裕彦がエスペラント広報でのコトバ遣いを、各々 10 分で提言。

永瀬義勝が、ブロンシュティン (講演予定だった) の人物像を紹介。つづいて、「Mia sperto en ĉi-somera Eŭropo」と題し、今夏の諸大会参加や交流を報告。

2020.2

伊藤俊彦が、ブロンシュティン著作の書評を紹介。別府良孝 (「斎藤秀一師に学ぶ会」会長) が、伝記『特高に奪われた青春』を配布し、日本エスペラント大会で分科会意向を表明。

「エスペラントを学んで感じる」と題して、講習受講者の今井田健二、内藤恵子、水谷良典が、それぞれのエスペラントとの出会いや今後の抱負を語った。

18 時、フランスの名古屋姉妹都市ランスのエスペラント関係者とスカイプ交流会。先方は 10 人の参加。なごやかにお互いに自己紹介。来年の日本大会での交流を約束した。30 分の接続後、大会は閉会。

大会後、「鶏居酒」での懇親会には 12 人が参加。

La 68-a Esperanto-Kongreso de Tookai okazis en 2019-10-26 kun 19 partoprenantoj, plus per skajpo 10 el Reims en Francio. (Hotta Hirohiko)





①その子猫を育て始めて2年経った。

【訳例1】 Pasis du jaroj, de kiam mi komencis varti la katidon. (Ivajo)

【訳例2】 Du jaroj pasis de kiam mi komencis varti la katon. (Celejo)

【訳例3】 Jam pasis du jaroj, de kiam mi ek-nutris tiun katidon. (AG)

ここでの「育てる」は、*varti iun* (保育する)、*prizorgi iun* (世話をする) や、*nutri iun per io* (〜で育てる) などが考えられるでしょう。*breĉi ion* (育種する) は、人間の用に供するために再生産する意味があるので、少し違う感じがします。*varti* の用例として *infanvartejo* (保育園) があります。学校に通う前の幼稚園は *infanĝardeno* です。

「2年経った」は、訳例のように *pasi* (過ぎ行く) を使って表現できるでしょう。*pasinteco* (過去)、*tempopasigo* (時間つぶし) などの用例があります。*pasi* は場所に関しても使い、*pasanto* (通行人) や *pasejo* (通路)、*zebrostria pasejo* (ゼブラゾーン)、*traknivela pasejo* (踏切) などの用例があります。

②私は冗談で猫にエスペラントで話しかけた。

【訳例1】 Mi alparolis la katon ŝerce en Esperanto. (Celejo, Ivajo)

【訳例2】 Mi ŝerce alparolis ĝin en esperanto. (Eiko)

【訳例3】 Mi parolis al la kato ŝerce en esperanto. (CA)

「冗談」には *ŝerci* (冗談を言う) が使えます。この単語は、冗談を言うだけでなく、ふざけてする場合にも使います。用例には *duonŝerce* (冗談半分)、*ŝercobjekto* (余興の小道具) があります。

「話しかける」には *alparoli iun* (話しかける) が使えます。この単語は他動詞なので、相手は対格で示します。訳例1と訳例2では副詞 *ŝerce* の位置が違います。訳例1は、猫に話しかけることよりも、使った言葉がエスペラントであることに注意を向けさせる言い方だと思います。この「猫」は、いたずら好きの Mimi ではなく、先代の Miko です。

③猫は急に立ち止まり、じっと私を見つめた。

【訳例1】 La kato abrupte haltis kaj fikse rigardis min. (CA, Celejo)

【訳例2】 La katido abrupte haltis kaj atente rigardis min. (Haveno)

【訳例3】 La kato abrupte haltis kaj fiksis sian rigardon sur mi. (Ivajo)

「急に」は、*abrupte* (唐突に) や *subite* (突然) が考えられます。*abrupta* は不快な唐突さで起こる、*subita* は急に起こる様子です。この猫を飼い始めて2年も過ぎ、もう何回も猫に話かけています。いくつかの単語は分かるようだと思っても、日本語が分かるとは思っていませんでした。

「立ち止まる」は *halti* (停止する) が使えます。*halt!* (止まれ) や *haltadi* (止まったままにいる)、*batalhalto* (停戦) などの用例があります。

「じっと」には *fikse* (固定して)、「見つめる」には *rigardi ion* (注視する) が考えられます。訳例2のように *atente* (注意深く) を使うのもいいでしょう。訳例3のような *fiksi ion* (留める) の使い方も、ある程度の時間、じっと見つめている様子が表現できていいと思います。猫が「何、この人だれ?」という感じで立ち止まったのは意外でした。

④外国語で話していると考えたに違いない。

【訳例1】 Ĝi devis pensi, ke mi parolas fremdan lingvon. (CA)

【訳例2】 Ĝi certe devis pensi, ke mi parolas en fremdlingvo (ikona)

【訳例3】 Laŭ mia supozo ĝi eble pensis, ke mi parolas en eksterlanda lingvo. (AG) 解説

この「外国語」は訳例のように *fremda* (見知らぬ) *lingvo* (言語) がいいでしょう。*alilanda* (他国の) や *eksterlanda* (国外の) は、言葉そのものではなく、場所の違いに関するものだと思います。猫なので、国の違いまでは分からないでしょう。

「考えたに違いない」は、*devis pensi* と言えるでしょう。訳例3は *laŭ mia supozo* (私の想像では) と *eble* (ひょっとしたら) で表現しています。題意とは異なりますが、そんな感じでした。猫が驚いて止まった様子を見て、私の方が驚いたものです。猫なのに、言葉が日本語とは違うので戸惑っているように見えました。

成績は p.18、新しい課題は p.19

映画の話、突然現れた宇宙人と意思疎通を行う
ために、彼らの言語を習得していくと……

“Arrival” (Esperante “Alveno”) estas usona sciencfikcia filmo en 2016, surbaze de la novelo “La Rakonto de Via Vivo” de *Ted Chiang*. Ĝia publikigo en Japanio estis en 2017 sub la japana titolo “Messeeĝi”. La rakonto estas ke la heroino lernas la lingvon de eksterteranoj por komunikiĝo inter ili kaj homaro. Ĝi estas sciencfikcia filmo, sed estas tia monotona ke ripetiĝas la ĉefa rakonto de deĉifrado pri la eksterlandana lingvo kaj la fragmentaj epizodoj pri la vivo de la heroino. Tamen samtempe mi sentas ĝin interesa filmo el lingvistika vidpunkto. La filmo estis tre laŭdata de multaj filmokritikistoj.

Nekonataj kosmoŝipoj subite aperas en la mondo, lingvistino *Louise Banks* (*Amy Adams*), fizikisto *Ian Donnelly* (*Jeremy Renner*), usona kolonelo *Weber* (*Forest Whitaker*) kaj aliaj komencas la esploron. La misio estas esplori la celon de la alveno de eksterteranoj. Ili havis sep gambojn, tial nomataj “Heptapodoj” (signifante sep gambojn). Mi ne scias kial eksterteranoj estas desegnitaj kiel kalmaroj* kun sep gamboj.

Post provo kaj eraro, komenciĝas deĉifrado de la Heptapod-priskriba lingvo. Paralele, *Louise* ofte vidas iluzion ke ŝi edziniĝas, fariĝas patrino, kaj havas sian filinon, kiu mortas pro malsano. Ĝi sentiĝas kiel memoro pri la pasinteco, sed ŝi ne estis edziniĝinta kaj ne havis filinon.

Kiam responde al la peto de la registaro rapidanta konkludon *Louise* demandas Heptapodojn pri la celo de la alveno per ilia priskriba lingvo, venas respondo, kiu povus esti interpretita kiel “Ni venis al la Tero por doni

al homoj armilon = ilon”. La ĉina armeo, kiu vidis tion kiel minaco, fermas la komunikan linion kaj komencas prepari sin al la milito kontraŭ la Heptapodoj.

Louise kaj *Ian* rapidas alfronti la Heptapodon denove. Sed tiam eksplodas bombo subminita en kosmoŝipo fare de unu el oficiroj, kiuj konsideras la eksterteranojn kiel minacojn. *Louise* kaj *Ian*, kiuj estis helpitaj per eksterteranoj, daŭras deĉifri la lastan kompleksan kaj supermezure grandan mesaĝon lasitan de Heptapodo, ke “la kunlaboro de la mondo povas alporti ion de Heptapodo al la homaro”. Sed ne plu komunikadaj linioj kun esploristoj tra la mondo estas fortranĉitaj, kaj la milito kontraŭ la Heptapodoj estas tuj komenciĝanta.

Louise fine deĉifras la veran kialon, kial eksterteranoj venis al la Tero. Ili venis por doni donacojn, ĉar ili estos helpataj de la homaro post 3000 jaroj. La donaco estas lernado de ilia lingvo kaj *Louise* ankaŭ komprenis, ke eksterteranoj estas vivaĵoj kiuj transpasas tempon kaj lerni ilian lingvon povas rekoni la estontecon. Ŝia vivo, pri kiu aperis en la fragmentaj epizodoj estis ŝia estonteco.

Ĉi tiu filmo estas farita surbaze de ia lingvistika hipotezo, nomita “la hipotezo de *Sapir-Whorf* (*Sapia-Ŭoorf*)”, kiu montras ke homaj spertoj kaj pensmanieroj estas efektive difinitaj per la lingvaj kutimoj kaj tial homoj, kiuj uzas malsamajn lingvojn, povas havi malsamajn manierojn sperti kaj pensi. Ĝi estis proponita en formon, kiu refutas la ideon, ke “la reala mondo povas esti precize perceptebla en iu ajn lingvo”.

La filmo finiĝas per sceno, kie *Louise* enkondukas la Heptapod-lingvon al popoloj kiel universalan lingvon.

Nun kiam vi lernas Esperanton, kiel la lingvo influas vin? Kompreneble vi ne povas vidi la estontecon, malsame ol la filmo.

*kalmaro 【動】ヤリイカ。

受賞の弁

小坂賞内緒話

田平 正子 (京都府)

小坂狷二を知ったのは、初心者時代に著書の『エスペラント前置詞の用法』を読んだ時。前置詞をうまく使えばうまい表現ができる。迷いやすいのは de。de はどこでも出てくるので易しいと思われがち。ちなみに JEI 発行の『エスペラント日本語辞典』では de については 3 ページに及ぶ説明がある。

小坂狷二は日本のエスペラント運動の父。1888 年生まれで 1969 年没。詳しいことはひつじ書房発行『日本エスペラント運動人名事典』(柴田巖・後藤齊編集、峰芳隆監修)の 118 ~ 120 ページで読める。小坂賞は毎年 JEI が運動家を表彰するもので、2019 年は 57 回目とか。

何で私が 2019 年度小坂賞?と思ったら、Pasporta Servo で国内外のエスペラント仲間の宿泊受け入れ・観光案内(40 年間に 400 人以上)をし、“La Movado”や KAOEM (アジア・オセアニアエスペラント運動委員会)の機関誌“Esperanto en Azio kaj Oceanio”や SAT の機関誌“Sennaciulo”や Rondo Harmonia の機関誌“La Harmonio”その他の原稿の校正をしたり、JEI 編集部で協力したり、UEA の fakdelegito として Pasporta Servo、ソロバン、ダンスに登録したり、UEA の中央事務局(オランダ・ロッテルダム)でボランティアしたり、日本から誰も参加しない第 6 回アフリカ大会(2016 年末・タンザニア)に夫の稔と共にいたり、70 歳で引退したが UEA 委員や JEI 理事を頼まれたり、UK で弁論大会審査員をしたり、SAT 大会でエスペラントグッズのオークションをして会計に寄付したり、3 年ごとのアジア大会(今はアジア・オセアニア大会と名称変更)に参加したり、あちこちの国際行事で日本文化の紹介としてソロバン講座や風呂敷講座をしたり、エスペラントおしゃべり会を京都のエスペラント会館でしたり、好きなことをやっているからか?

エスペランティストの高齢化が心配される中、立命館大のエスペラントクラブへ京都エスペラント会を紹介して会員が増えたり、京大エスペラントクラブに外国人エスペランティストを連れて行き民際交流してもらおう。

京都には FM 京都三条ラジオカフェと言うラジ
La Movado 828

オ番組があり、毎月第 2 と第 4 水曜の 13 時から 6 分間「エスペラントってなに?」の放送権(毎月 1 万円)を有志でカンパして広報活動に協力。京都以外のエスペランティストにも協力いただいている。謝礼無し、交通費も出ないのに。これからも皆さんに協力をお願いしたいので、どうぞよろしく。歌手の野田淳子さんの“Esperanto estas la lingvo por ni, por ni!”の歌声で始まり、好きなことが言えるので楽しい。

私の半生記も面白そうだと言われたが、どこかに書いた覚えがあり、長くなるのでやめとく。不思議な縁を感じたのは、私が北九州市で生まれる前に祖父が萩市内でエスペラント広報のチラシを配ったり、父のソロバン塾が年中無休で手伝っていた時も、エスペラント大会がある週末に休んでも父は快く認めてくれたし、母の秘めたる初恋の人が京都のエスペランティストだったり、私が京都の稔と知り合ったのもエスペラント界だったり。

2019 年末に 78 歳になる私は、認知症(demenco)の komencanto。地理的なことが苦手で京都市内でも自信がない。それに覚えるよりも忘れる方が多い。知らない単語があると辞書を引く。ところが同じ単語がまた出てきた時は、前に辞書を引いた記憶はあるが、どんな意味かを忘れている。どうせ忘れるのなら、辞書を引かないでおうか?

小坂賞もひねくれて考えると、生きている内ではないとヤバイ、ということではないのかな? 2017 年の韓国・ソウルの UK で、滑って転んで骨折して救急車のお世話になったせいか、2018 年のポルトガル・リスボンの UK では UEA が表彰する 14 人の中に入れられたのも、UEA の親心ではないか。でも賞をもらおうと悪いこともできなくなりそうで痛し痒し。

肩書無しで自分のできることをしたい。そしてエスペラント界だけの専門バカにならず、様々な市民運動と結びつくエスペランティストを続けたい。



Wakana B – Juna Verdaĵo B (12)

eljapanigis belmonto

La ĥinstilan dancon “Gratulo de Mil Jaroj” dancis la kvara filo de Dekstra Ministro, kaj la tria filo de la *dajŝaŭo*, kaj du filoj de la princo *Fjaŭbukjaŭ*, Lampiro. Ili ĉiuj estis tre etaj kaj tre ĉarmaj. Ili estis idoj de altrangaj familioj, kaj aperis en belaj figuroj bone ornamitaj, kio sentigis ilian noblecon. Sinsekve ĥinstilan dancon “Granda Kapreolo” ludis la dua filo de *dajŝaŭo*, naskita el *Najŝi*, kaj la filo de *Ŝikibukjaŭ*, kiu estis antaŭe la estro de militservo kaj nuna *Gen-Tiŭnagono*. La tria filo de Dekstra Ministro dancis “Reĝon *Lioŭ*”, kaj la unua filo de la *dajŝaŭo* Kogurian Kurdancon, kaj fine infanoj kaj plenkreskuloj de la familioj mikse dancadis sinsekve “Gloron al Paco” aŭ “Ĉojon al la Printempo”, kaj aliajn. Jam vesperiĝis. *Genĝi* malfermis la bambukurtenon, supren ŝovante. Pli interesiĝis la ludo; la ĉarmaj nepoj plu dancis en siaj naturaj figuroj kaj manieroj, plej lerte laŭ instruoj de la mentoroj — *Genĝi* vidis ĉiujn infanojn tre amindaj. Maljuniĝintaj *kamdatimoj* ploris en larmoj. Ankaŭ *Ŝikibukjaŭ* ploris, frotante la nazon ĝis ruĝiĝo. *Genĝi* diris:

“Laŭ multaĝiĝo larmi en ebrío estas apenaŭ halteble. Ho, Denta Kverko ridadas min cinike, por mia honto! Sed juneco estas nur portempa. Jaroj ne retrokuras. Aĝiĝon povas eviti neniu!”

Genĝi fiksrigardis lin. Li serve sidis proksime de *Genĝi*, sed tre malbonfarte ol aliaj, ne bone amuzante sin en provludo, kiun *Genĝi* sarkasme akuzis, afektante troan ebrion. Ĝi ŝajnis ŝerco, sed lia koro disŝire rompiĝis. Cirkulanta taseto da sakeo ankaŭ turmentis lian kapon, kion li ĉarlantanis en afekto eldrinki. Sed *Genĝi* travidis ĉion, kaj trude drinkigis al li, lasante lin porti la taseton. Li

右の大殿の四郎君、大将殿の三郎君、兵部卿宮の孫王(そんわう)の君たち二人(ふたり)は万歳楽(まんざいらく)、まだいと小さきほどにて、いとらうたげなり。四人ながらいづれとなく、高き家の子にて、容貌(かたち)をかしげにかしづき出でたる、思ひなしもやむごとなし。また、大将の御子の典侍腹(ないしのすけばら)の二郎君、式部卿宮の兵衛督といひし、今は源中納言の御子皇躰(わうじゃう)、右の大殿(おほいどの)の三郎君陵王(りょうわう)、大将殿の太郎落蹲(らくそん)、さては、太平楽(たいへいらく)喜春楽(きしゅんらく)などいふ舞どもをなん、同じ御仲らひの君たち、大人(おとな)たちなど舞ひける。暮れゆけば、御簾(みす)上げさせたまひて、ものの興まさるに、いとうつくしき御孫(むまご)の君たちの容貌(かたち)姿にて、舞のさまも世に見えぬ手を尽くして、御師(おほむし)どもも、おのおの手の限りを教へきこえけるに、深きかどかどしさを加へてめづらかに舞ひたまふを、いづれをもいとらうたしと思す。老いたまへる上達部たちは、みな涙落したまふ。式部卿宮も、御孫(むまご)を思して、御鼻の色づくまでしほたれたまふ。

主(あるじ)の院、

「過ぐる齡(よはひ)にそへては、酔泣(ゑひな)きこそとどめがたきわざなりけれ。衛門督心とどめてほほ笑(ゑ)まるる、いと心恥づかしや。さりとも、いましばしならん。さかさまに行かぬ年月よ。老(おい)は、えのがれぬわざなり」

とてうち見やりたまふに、人よりけにまめだち屈(く)じて、まことに心地もいと悩(なや)ましかれば、いみじき事も目もとまらぬ心地する人をしもさし分きて空酔(そらゑひ)をしつつかくのたまふ。戯(たはぶ)れのやうなれど、いとど胸つぶれて、盃(さかづき)のめぐり来るも頭(かしら)いたくおぼゆれば、けしきばかりにて紛らはすを御覧じとがめて、持たせながらたびたび強(し)ひたまへば、はしたなくてもてわづらふさま、なべての人に似ずをかし。

tute ne sciis kiel fari. Sed ankaŭ tia figuro estis eleganta.

39) Denta Kverko morte malsaniĝas

Denta Kverko elŝteliĝis el la festeno de la provludo, kio ankoraŭ ne finiĝis, pro sia troa malagrabiĝo, kaj tre konfuziĝis per si mem.

“Mi ne tro drinkis nek tro ebriis, sed kial tiel suferiga? Aŭ mi hipertensiĝis pro mia ne volo ĉeesti la eventon? Mi kredas, ke mi ne estas tiel malfortika, prenante vortojn de *Genĝi* tro bombaste.”

Li konsideris pri si. Tio ne estis portempa malbona ebrio, kaj en tia stato li malsaniĝis tre grave. Lia patro, la eksa ĉefministro, kaj la patrino estis tre ŝokita malkviete pri li, la heredanton, kaj volis transloĝigi lin en sian propran loĝejon por bone flegi, pensante, ke ili estos malkvieta pro la aparta loĝado. Kiel kompatinda estis la dua princino Falinta Folio, forŝirote de sia edzo!

Kiam li pasigis tagojn pace sen ia okupo, li esperis de ŝi tro da amo, sed ilia intimeco tamen ne profundigis. Nun li sentis alvenon de fina disiĝo kun ŝi baldaŭ, kaj lamentis por ŝi, kaj pripensis ŝian malĝojon post sia morto. Ŝia sanga patrino ankaŭ tre ĝemis kaj diris:

“Laŭ normala kutimo en la socio geedzaj estu ĉiam kune, kompreneble respektante gepatrojn. Loĝi en via naska domo apartiĝinte en ĉi tia stato ĝis resaniĝo rompos niajn korojn. Lasu ŝin flegi vin ĉi tie dumtempe.”

Ŝi intermetis nur vandokurtenon kaj flegis lin apude.

(daŭrigota)

第 105 回世界エスぺラント大会

2020年8月1日(土)～8日(土)

カナダ モントリオール

第 107 回日本エスぺラント大会

2020年9月20日(日)～22日(火/祝)

名古屋市 ウインクあいち

心地かき乱りてたへがたければ、まだ事もはてめにまかでたまひぬるままに、いといたくまどひて、

「例のいとおどろおどろしき酔(ゑひ)にもあらぬを、いかなればかかるならむ。つつましものを思ひつるに、気(け)ののぼりぬるにや。いとさいふばかり、臆(おく)すべき心弱さとはおぼえぬを、言ふかひなくもありけるかな」

とみづから思ひ知らる。しばしの酔のまどひにもあらざりけり。やがて、いといたくわづらひたまふ。大臣(おとど)、母北の方思し騒ぎて、よそよそにていとおぼつかなしとて、殿(との)に渡したてまつりたまふを、女宮の思したるさま、またいと心苦し。

事なくて過ぐすべき日ごろは心のどかにあいな頼(だの)みして、いとしもあらぬ御心ざしなれど、今は、と別れたてまつるべき門出(かどで)にやと思ふは、あはれに悲しく、後(おく)れて思し嘆かんことのかたじけなきをいみじと思ふ。母御息所(ははみやすどころ)も、いといみじく嘆きたまひて、

「世の事として、親をばなほさるものにおきたてまつりて、かかる御仲らひは、とあるをりもかかるをりも、離れたまはぬこそ例のことなれ、かくひき別れて、たひらかにものしたまふまでも過ぐしたまはむが心づくしなるべきことを。しばしここにてかくて試みたまへ」

と、御かたはらに御几帳(きぢやう)ばかりを隔てて見たてまつりたまふ。

(続く)

Kurantaj Vortoj

熟議 atenta interkonsiliĝo

抽選制議会 lotuma parlamento (欧州で試行)

選挙制議会 elekta parlamento

カーニバル・謝肉祭 karnavalo (2月頃。2020年は2月23日(日)～25日(火)など)

国際色ゆたかに越年研修会

編集部

エスペラント普及会による恒例の越年エスペラント研修会が、12月30日から1月2日まで、亀岡市の大本本部で行われた。受講生は122人で、8つのクラスに分かれて学習や交流をした。参加者のうち23人が韓国から、18人がネパールからで、他に日本在住の中国人も。講師陣の中にも韓国人がいて、国際色ゆたかな研修会だった。

吾郷孝志さんによる入門クラスは、ABCの基本から。易しい構文や単語を学んだ。奥脇俊臣さん指導の初級クラスは、『エクスプレスエスペラント語』を教材に、カードを使ったゲームも取り入れて学習した。田淵八洲雄さんの初級会話クラスは、日本と韓国の正月の伝統遊びなどを交えて、楽しく会話を実践した。矢野裕巳さんの中級クラスは、“Rakontoj el Oomoto”を教材に学習した。竹原如是さんの韓国初級クラス



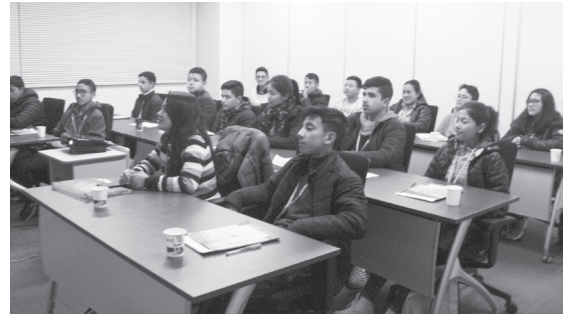
子供クラス

は、韓国語でエスペラントを教えるクラスで、竹原さんの著作“Mi estas Jaguaro”を教材に、韓国人と日本人が混じって授業を受けた。SHIN Eun-Sook（通称 Songanta）さんが指導する自由会話クラスは、環境問題なども含めてさまざまなテーマで意見を交換した。ネパールからは日本の中学生に当たる年齢の若者たちが、木村克哉さんが指導するクラスで、英語を使ってエスペラントを学んだ。子供クラスの指導者は金子暁美さんで、ゲームを中心に楽しくエスペラントに親しんでいた。

各クラスでの学習のほか、ラハティの世界大会の報告など、4件の講演も行われた。2日めに行われた懇親会は、歌や踊りで盛り上がった。

また、新年祭やお茶席など、大本の年末年始の行事に親しむための自由時間も十分に設けられていて、参加者は越年研修会ならではの体験を楽しんだ。

ロビーには子供たちのはしゃぐ声や若者たちの話し声がひびき、活気にあふれた研修会だった。



ネパールの若者たち

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (84)

相川 節子

関連詞 (17) ties

kies が「誰の」という意味ですから、これまでの他の関連詞の説明に照らして、ties が「その人の」「その物の」という意味になることは想像がつくと思います。でも、いったいどんな時に使うのかという疑問がわくでしょう。わたし個人の経験ではありますが、日常の会話や手紙（電子メールも）で使われることはほとんどないように思います。ties を使わなくても、lia、ĝia、ilia で間に合うからです。

でも、それで説明を終わっては身もふたもないの

で、文例をひとつだけ。

En la restoracio lin atendis lia pli aĝa frato kaj ties edzino.

（そのレストランでは、彼の兄とその妻が彼を待っていた）

もし lia edzino と言ったら、彼の妻なのか兄の妻なのかははっきりしなくなるので、ties の方が便利だとは言えるでしょう。

とは言っても、こういう使い分けを覚えても実際に役に立つ場面は少ないと思います。上の例文にしても、誰の妻なのかは前後の文脈でわかるはずですから、現実問題としては lia を使っても差し支えありません。

第 68 回関西エスペラント大会

La 68a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

日 時：2020年6月13日（土）～14日（日）

会 場：高槻現代劇場（市民会館）

〒569-0077 高槻市野見町2-33

主 催：高槻エスペラント会

一般社団法人 関西エスペラント連盟

協 力：枚方エスペラント会・茨木エスペラント会

後 援：高槻市、高槻市教育委員会、

高槻市都市交流協会

大会ウェブページ：

<http://www.kleg.org/kek/kek68.htm>



大会テーマ：それでもエスペラント Tamen ni esperantistas

スマホの言語翻訳機能を用いて異なる言葉を使う人と意思疎通ができるようになってきている現在でも、異言語者との交流は心の通った言葉エスペラントでしたい、との思いをこめて大会テーマを Tamen ni esperantistas (それでもエスペラント) としました。

今回の大会では、公開講演として高槻の名誉市民を語り継ぐ会会長の馬淵晴彦さんをお願いして、高槻の生んだ国際政治家高碓達之助について、まとめられた資料を以って「映像で振り返る高碓達之助」を語っていただきます。

私達の町高槻は、祖先の心をしのばせる遺跡・史跡をはじめ、数多くの文化財を持つ由緒のある町です。そのことを表現する思いで大会シンボルマークに埴輪（はにわ）を取り入れました。

大会前遠足としてシンボルマークに関係する「今城塚古代歴史館」と今城塚古墳公園の見学と散策を予定しています。今城塚古墳は6世紀前半では最大級の古墳で、第26代継体天皇の真の陵とする説が有力な前方後円墳です。現地訪問にはマイクロバスの使用を考えています。

今回の大会記念品は、土居智江子さんによるエスペラント訳、夏目漱石の『門』です。ご期待ください。もちろんこれは、不在参加の方々にもお届けいたします。

宇治で開催された前大会の分科会で語られたように、会員の高齢化による関西大会の Rond 輪番開催の難しさがある中、高槻エスペラント会でお引き受けしました。皆さんぜひ参加登録を、そして、1人でも多くのご参加をもって、大会成功にお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

日程

第1日目 6月13日(土)

- 9:30～ 受付開始
- 9:50～12:00 大会前遠足
- 10:30～12:00 分科会
- 12:00～13:00 昼食 休憩
- 13:00～14:45 分科会
- 15:00～16:30 開会式
- 16:30～18:00 Gaja Vespero (楽しい夕べ)
- 18:00～20:00 Bankedo (懇親会)

第2日目 6月14日(日)

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～12:00 分科会
- 11:40～12:00 記念写真撮影
- 12:00～13:00 昼食(弁当:錦松鶴で)
- 13:00～15:50 公開番組
- 16:00～ 閉会式

番組内容

第1日目 6月13日(土)

大会前遠足 9:50～12:00

訪問を予定している今城塚古代歴史館は大会会場から離れていますので乗り物を利用します。準備の都合がありますので大会参加登録を4月30日までにお願います。なお交通費については実費を当日徴収させていただきます。

参加者は当日会場前に9時30分にお集まりください。

分科会 10:30～12:00

- ・外国人と語る会
外国人エスペランティストとの会話実践。
- ・エスペラントで話す失敗談
エスペラント界も世間と同様に高齢者が多くなってきました。物忘れ経験談やその対策などをエスペラントで紹介していただく番組です。

(昼食・休憩 12:00～13:00)

各自で適当にお取りください。

分科会 13:00～14:45

- ・大会小大学(予定)
- ・作文教室

La Movadoの作文教室でおなじみの塚本猛さんによる直接講座です。

- ・科学者・医学者の会
- ・会誌編集者の会
ロンドの会誌編集者が集い、原稿集めのこと、パソコン利用による編集のテクニックなどを紹介します。一般参加者の出席を歓迎します。
- ・その他

開会式 15:00～16:30

高槻市長、教育委員長が出席予定です。

Gaja Vespero (楽しい夕べ) 16:30～18:00

毎年好評の池田エスペラント会の狂言が今大会でも演じられます。

*出演希望を歓迎しますので、事前の申し込みをお願いします。

Bankedo (懇親会) 18:00～20:00

同会館レストラン錦松鶴で実施します。

気楽な場所での食事をしながら、久し振りに出逢ったお仲間と歓談ください。

第2日目 6月14日(日)

分科会 9:30～12:00

- ・外国人と語る会
中国・常州市から張常生会長他が出席の予定。また、大会参加の外国人にも出席を依頼します。
- ・翻訳の苦労話
大会記念品の夏目漱石の『門』訳した土居智江子さんに苦心談を語っていただく。
- ・公開入門講座「エスペラントって何ですか？」
高槻エスペラント会の使用教材による楽しい講座です。

記念写真撮影 11:40～12:00

会館前の屋外階段で。撮影は仲間に協力をお願いします。雨天時は、主会場内。

(昼食・休憩 12:00～13:00)

弁当予約者は弁当券と引替えにレストラン錦松鶴でぐゅっくりとお気楽に。

公開番組 13:00～15:50

1. 映像で振り返る高碇達之助
高槻の名誉市民を語り継ぐ会会長馬淵晴彦さん

による日本語講演

高崎達之助：[1885-1964] 政治家・実業家。

現在の高槻市生まれ、1917年東洋製缶設立。

1942年満州重工業総裁に就任。1955年衆議院

議員に当選、通商産業大臣など歴任。日ソ漁業

交渉や日中国交正常化など外交の舞台で活躍。

2. 野田淳子さんが歌う「命の歌、心の歌」

当日はエスペラントで歌う命の歌、心の歌を聞

いていただいたり、皆さんと一緒に歌います。

野田淳子：プロのシンガーソングライター。

1970年フォーク歌手ジョン・バエズに魅せ

られ（株）電通を退社、上條恒彦に出会い、歌

手の道を歩き始める。

閉会式 16:00～

大会一般情報

大会参加費その他

①一般参加者	3月末まで	3500円
②一般参加者	4月末まで	4000円
③一般参加者	5月以降	4500円
④学習開始一年未満の新人		2000円
⑤青年（35歳未満）		1000円
⑥20歳未満（記念品無し）		無料
⑦障がい者		2500円
⑧不在参加		2500円
⑨記念写真		500円
⑩2日目弁当		1000円
⑪懇親会（飲料代含まず）		3000円
⑫大会前遠足	実費、当日徴収	

青年等は、大会当日の年齢によります。

不在参加は、「出席はできないが大会を応援しよう」と思ってくださいの方が対象です。

大会後記念品と資料をお送りします。

大会前遠足、懇親会、2日目弁当

申込期限は4月末です。準備の都合上、4月末までの大会参加登録時に申し込みをお願いします。

☆大会記念品

土居智江子さんによる夏目漱石著『門』のエスペラント訳。

☆高槻エスペラント展の紹介

高槻市主催・秋の文化祭に毎年参加し、昨年第

54回目の展示会を実施。その一部を今大会で展示紹介します。

☆大会書店

KLEG 図書部の図書出張販売コーナーが今大会

でも設けられます。エスペラントの力をつける基

本は読書が第一といわれています。ぜひご利用く

ださい。

☆大会サロン

大会中、ちょっと休憩していただける場所をサロ

ンとして設けます。

☆ホテル案内：各自に確保願います。

参考までに、下記ホテルを紹介します。

高槻サンホテル（TEL：072-676-8787）、

ワークホテル高槻（TEL：072-686-3288）、

高槻 W&M ホテル（TEL：072-662-3310）

申込は専用の振込用紙に必要事項を記入の上、ご送

金ください。

郵便振替口座 00970-7-186418

口座名：関西エスペラント大会

番組参加申込受付中

分科会・Gaja Vespero（楽しい夕べ）

エスペラントによる演芸・その他

締切り：4月30日

連絡先：第68回関西エスペラント大会実行委員会

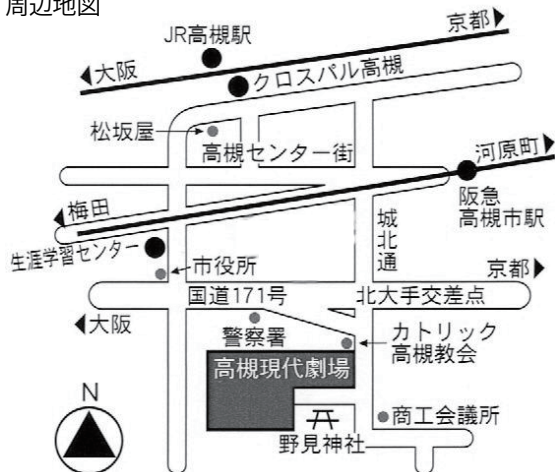
〒561-0802 豊中市曾根東町 1-11-46-204

関西エスペラント連盟 気付

電話：06-6841-1928、ファクス：06-6841-1955

メール：kek68@gmail.com

周辺地図



La 68a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

Dato: 2020.6.13(sabato)-14(dimanco)

Loko: Takatsuki Gendai Gekijo
(Takatsuki-shi Nomi-cho 2-33)

Organizas:

Esperanto-Societo en Takatuki
Kansaja Ligo de Esperanto-Grupoj
Kongresa temo: Tamen ni esperantistas

Pri la kongresa temo

Nuntempe poŝtelefona tekniko rapide evoluas kaj oni ekhavas kapablon komuniki kun malsamaj lingvanoj per ĝia tradukilo. Ni foje aŭdas, ke jam neceseco de Esperanto finiĝis.

Tamen ni volas komuniki laŭeble en tia okazo kun malsamaj lingvanoj per nia kara lingvo Esperanto. Kun tia sento la temo estas decidita.

Programo

la 13a de junio

9:30 ~ akceptado
9:50 ~ 12:00 antaŭkongresa ekskurso
10:30 ~ 12:00 interparolo kun alilandano
10:30 ~ 12:00 prezento en Esperanto pri persona fuŝita afero pro forgesemo kaj la rimedo kontraŭ tio
12:00 ~ 13:00 tagmanĝo kaj ripozo respektive (nearanĝita)
13:00 ~ 14:45 laŭtemaj apartaj kunvenoj
15:00 ~ 16:30 inaŭguro
16:30 ~ 18:00 gaja vespero
18:00 ~ 20:00 bankedo

La 14a de junio

9:00 ~ akceptado
9:30 ~ 11:30 laŭtemaj apartaj kunvenoj
11:40 ~ 12:00 komuna fotiĝo
12:00 ~ 13:00 tagmanĝo kaj ripozo
13:00 ~ 15:50 publika programero
1 japanlingva prelego
de s-ro MABUCHI Haruhiko
pri TAKASAKI Tatsunosuke
2 solkanto de s-ino NODA Junko
16:00 ~ fermo

Antaŭkongresa ekskurso

La aliĝintoj vizitos la muzeon de antikvtempa historio Imashirozuka. Ĝi montras diversajn antikvtempajn objektojn kaj apud la muzeo troviĝas tumulo konstruita en antaŭa periodo de la 6a jarcento. Iuj arkeologoj opinias, ke ĝi estis vera tumulo de la 26a Tennoo Keitai. La vizitantoj povas promeni sur kaj ĉirkaŭ la tumulo.

La aliĝintoj kolektiĝu je la 9a kaj 30 antaŭ la kongresejo. Ni iros per veturilo, ĉar ĝi troviĝas en iom distanca loko.

Kongresa memoraĵo

libro 『門 mon』 “Pordego”
verkita de NACUME Soseki,
esperantigita de Doi Ĉieko

Kotizo kaj aliaj prezoj

① aliĝo ĝis la fino de marto	3,500 enoj
② aliĝo ĝis la fino de aprilo	4,000 enoj
③ aliĝo post la 1a de majo	4,500 enoj
④ novulo malpli ol 1 jaro	2,000 enoj
⑤ junulo malpli ol 35-jara	1,000 enoj
⑥ junulo malpli ol 20-jara	0 enoj
(sen kongresa memoraĵo)	
⑦ handikapulo	2,500 enoj
⑧ morala aliĝo	2,500 enoj
⑨ komuna foto	500 enoj
⑩ lunĉo en la 14a de junio	1,000 enoj
⑪ bankedo	3,000 enoj
(ne inkludas trinkaĵon)	
⑫ antaŭkongresa ekskurso	neta kosto

Limdato : bankedo, lunĉo kaj ekskurso estu anontitaj ĝis la fino de aprilo

Kiel atingi la kongresejon

La kongreso okazos en Takatsuki Gendai Gekijo, kiun oni povas alveni piede de la stacio Takatsuki-shi de Hankyu-Linio kaj la stacio de Takatsuki-JR-Linio; nome. 7 minutojn piede de Hankyu kaj 15 minutojn piede de JR. Bonvolu demandi ĉe la elirejo de la stacio.

Reprezentanto de LKK

Nomo : UKITA Masaharu
Retadreso : kek68@gmail.com

Fluto de Verdaj Folioj (青葉の笛)

poez. OOWADA Takeki muz. TAMURA Torazô tradukis SIMATANI Takesi

♩ = 84 mp

1) Dum la ba - ta - lo pe - re - is por ro - sa gut'
2) Nok - te po - e - to ŝtel - ve - nis al maj - stra dom'

mf mp

la ju - nu - lo de He - i - ke, la a - man - to de la flut'
An - taŭ fu - ĝo li de - po - nis nur po - e - mojn por re - nom'

mf f

En aŭ - ro - ro fros - ta ĉe Su - ma mu - zi - kon de for'
Post la mor - to ĉe l' zo - no res - tis po - e - mo de flor'

p

aŭ - dis mal - a - mi - koj en ten - da - ro ka - ŝe dum de - ĵor'
Kaj la kla - no de He - i - ke jam pe - re - is tu - te for

青葉の笛

作詞: 大和田 建樹 (おおわたけき、1857-1910)

作曲: 田村 虎蔵 (たむらとらぞう、1873-1943)

- 1) 一ノ谷の軍 (いくさ) 破れ、
討たれし平家の公達 (きんだち) 哀れ
曉寒き須磨の嵐に、
聞こえしはこれか青葉の笛
- 2) 更 (ふ) くる夜半 (よわ) に門をたたき、
我が師に託せし言の葉 (ことのは) 哀れ
今わの際 (きわ) まで持ちし籥 (えびら) に、
残れるは「花や今宵」の歌

※ 1: 平敦盛は平家の武将。「一ノ谷の戦い」で源氏の熊谷次郎直実に討たれた。笛の名手で、愛用の「青葉の笛」は須磨寺に残る。

※ 2: 平忠度は和歌に勝れた平家の武将。「一ノ谷の戦い」で討たれたとき、籥に次の歌を結いつけていた。

行き暮れて 木(こ)の下陰(したかげ)を 宿とせば
花や今宵の 主(あるじ)ならまし

La Movado 828

Fluto de Verdaj Folioj

poez. OOWADA Takeki muz. TAMURA Torazô tradukis SIMATANI Takesi

- 1) Dum la batalo pereis por rosa gut'
la junulo de Heike, la amanto de la flut'
En aŭroro frosta ĉe Suma muzikon de for'
aŭdis malamikoj en tendaro kaŝe dum deĵor'
- 2) Nokte poeto ŝtelvenis al majstra dom'
Antaŭ fuĝo li deponis nur poemojn por renom
Post la morto ĉe l' zono restis poemo de flor'
Kaj la klando de Heike jam pereis tute for

※ 1: Taira-no-Acumori estas la nobelo de Heike mortigita de Kumagai-Jiroo-Naozane, la soldato en la tendaro de Genji. Acumori estis ludanto de la Fluto de Verdaj Folioj (Aoba no Hue), kiu restas en la Templo Suma.

※ 2: Ĉe la sagujo de kompatinda Tadanori restis la poemo:

Ĉar sinkis suno, mi gastu sub la arbo nur provizore
Estu mastro por nuno floroj belaj favore.

ポリグロット・コンフェレンス

ワークショップのレポート(2)

瀬下 政也(埼玉県)

まずエスペラントの歴史的な概要を説明し、"italki" や "Duolingo" のような言語学習アプリではどの程度の話者数や学習者がいるか紹介しました。それから現代は千人程度エスペラントの母語者がいることがフィンランドの新聞で報じられたことやエスペラントの基本的な文法を紹介しました。特にエスペラントの文法紹介ではエスペラントでエスペラントの文法を参照しながら、お互いの言葉の文法についておしゃべりのような感覚で軽い比較を行いました。

ただ本来の目的は成功したとは言えません。残念なことに私のエスペラントのワークショップだけに限らず、全体として日本人の参加者の割合が極端に少なかったようです。私自身も他の講義に顔を出しましたが、日本人と考えられる人は10人いるかないか程度のように思えました(しかも全員が自発的な参加者ではなく、"Memrise"などの語学アプリの企業関係者であったり、私のように講義を担当するから呼ばれたり、というパターンが多かったように思います)。この目的は「ポリグロット・コンフェレンスでワークショップを開いた」「クラウドファンディングを成功させた」という実績をもとに、新たな方法を考案して達成できればと考えます。

ところで「グローバル化」という言葉が叫ばれてから久しくなりました。しかし、日本はグローバル化が進んでいるようには思えません。例えばそれはグローバルという言葉と英語教育がくっついていることに誰もが疑念を抱いていないという点で明らかであると考えます。「英語」と「グローバル化」が教育において密接に関連付けられていることは、日本における「グローバル」はアメリカのような経済大国との交流を目的しているということを暗喩しており、視野の狭さを露呈していると考えています。「グローバル化」というのは本来、経済だけではなく、異文化理解や環境問題、情報技術の革新によるボーダーレス化など様々な応用できる言葉であり、簡単に英語とくっつけられるものではないはずなのです。単純に海外に「話している人が多いから英語」という理由であれば世界で話者数の多い中国語、ス

ペイン語、ヒンディー語/ウルドゥー語の義務教育化を進めるべきではないのでしょうか？そしてこの言語の名前を見るとわかるように、「グローバルである」ということを考えると、本当であれば日本語と英語だけの2項対立の問題ではなくなってくることがわかります。グローバル化を掲げると否応無しにポリグロット化、英語と日本語と他の言語を巻き込んだ複数言語化の問題にも直面します。そういった意味でポリグロット・コンフェレンスにはグローバル志向の日本人の若者がたくさん出席してくれるのではないかと期待していました。

「エスペラントは私たちのポリグロット生活を助けてくれる言語です」と私はワークショップで主張しました。エスペラントは当然、「事実上の国際語」である英語に、勉強のニーズで敵わないと思っています。それでもエスペラントは「心のグローバル化」に寄与することができると思います。つまり「グローバル化は英語でなければならない」という視点から「グローバル化は英語という視点もある」という点に変えたり、「"世界"ではこう考えられている」という視点を「"英語"ではこう考えられている」という風に変えたりしてくれます。そのような点でエスペラントは日本人にとってポリグロットの入り口に適した人工言語だと考えます。

今回のポリグロット・コンフェレンスではこのような考えを日本の人たちと共有することは叶いませんでしたが、参加者複数名からエスペラントについて好意的な反応が返ってきました。ドイツの人からは「(エスペラントの造語法を学んで)人の解釈を造語に反映させることができるユニークな言葉」と評価され、中国の人からは「事前にウィキペディアなどでチェックしましたが、文法などの話を聞いてもイメージが全然湧かなかった。なので、ワークショップの内容でとてもよくわかりました。ありがとうございました」とお礼を頂きました。アメリカの人は「文法構造に興味を持った」ということでお互いにLINEの連絡先を交換しました。

本来の目的とは少しずれましたが、海外の若者が私のワークショップでそれぞれのエスペラントの良いところを見つけて帰ってくれたところは喜ばしいことです。そしてそれは私だけでなく、協力してくれたウニカさんやシャウキさん、良いエスペラント

(次ページ左下へ)

各地でザメンホフ祭 (エスペラント祭)

[E = エスペラント]

福岡

12月15日(日)16時～18時半、福岡市国際会館でザメンホフ祭を行った。参加者は子供ふたりを含めて13人。“La Espero” 斉唱に続いて秋吉任子さんの開会宣言、秋吉さん・田上和子さん・武藤たつこさんによる三種類のゲームと続いた。外園恵子さんによるお話「命のビザをつないだ男—小辻節三とユダヤ難民について」、松本朗さんの“La Vojo” 独唱のあと、全員で“Al la Ĝojo”、“Ridu ridu”、“Al amiko malproksima” を歌った。休憩時間には古本市。そのあとザメンホフ最後の大会講演の最後の章を全員で順番に朗読した。

終了後、希望者による食事会を近くの居酒屋で行った。 [←武藤 たつこ]

香川

12月15日(日)香川E会のザメンホフ祭がアイパル香川において開催された。参加者は9人。

内容は会計報告(土居さん)、中国四国大会報告(小阪清行さん)、地元エス運動の歴史:香川E会→四国大会→中国・四国大会(小阪清行さん)、スカイプを使ってフランス(Claude)と台湾(Cirilo)のエスペランチストと会話(木谷奉子さん)。

[←中四国だより]

広島

12月18日(水)正午から光町エスペラントセンターで広島E会Z祭を開き、途中参加2人を含めて13人出席した。はじめに持ち寄りの料理「パエリア」(忍岡妙子)、「ポトフ」(川本咲枝)、「サラダ」(野原エミ)で食事会。続いて順番に故岡本三夫・珠代夫妻を偲んで思い出を語り、黙祷した。次に広

の例をアドリブで紹介してくれたハルペン・ジャックさん、イギリスのマットさん、スペインのアレハンドロさん達の功績です。また、それは今回快くクラウドファンディングで協力を申し出てくれた名無しのあしながエスペランチスト達のお力で支えられ、実現したことだと思います。最後にこの言葉で筆を置かせて頂ければと思います。

Mi kore dankas vin!

島市平和文化センターに団体登録するための書類の作成、次年度から「国際フェスタ」に参加する。

2020年3月に予定している温泉旅行の行先を検討。

野原エミ夫妻の紙芝居E訳「ものぐさ太郎」を楽しみ、歌を歌って散会した。2020年最初の週例会は1月15日として、この日で冬休みに入った。

[←中四国だより]

岡山

岡山E会は12月14日(土)、原田英樹文学館でザメンホフ祭を開催した。参加者は16人。

1. Ĝenerala kunsido 2. Ĝoja kunsido 3. Bankedoの3部構成で行われた。

第1部では会長より活動報告があり、岡山E会ニュースの発行、八ヶ岳合宿、島津泰子さんの“Krabŝipo”の出版、中村文雄さんの“La Revuo Orienta”10月号への投稿、原田文学館でのZamenfofa festo等、有意義な1年だったと報告。

第2部では、原田文学館の設立と、中村文雄さんの100歳を祝福し、クスダマが割られ、2人の胸に赤いおり紙の薔薇がつけられた。また山陽学園の文化祭の様子をビデオレターで、講師の福井政春さんが紹介した。

第3部は、隣のカフェで、食事をしながら楽しく団らんした。 [←島津 泰子]



神戸

12月21日(土)、神戸E会・はりまE会の合同ザメンホフ祭が神戸市長田区の新しい神戸市庁舎にある神戸生活創造センターで行われた。参加者は神戸E会10人、はりまE会7人を含め19人。

13時から17時まで、盛り沢山の出し物があり楽しい一時を送った。神戸、はりま両E会の機関誌を交換するという新しい試みもあった。終了後の希

望者による忘年会も盛況だった。 [←磯貝 尚武]

池田

12月15日(日)13時半～17時、池田中央公民館で池田E会・吹田E会・豊中E会が北摂ザメンホフ祭を行った。参加者18人。

「佐野伸子さん追悼写真集」、活動報告、松川真木さんが外国エスペランチストと撮った写真(赤ちゃん時代～現在)などをPCとプロジェクタで壁に投影。松田洋子さんがLとRの発音練習。えと(猪)の歌は“La Movado”2019年11月号掲載の“Kun Urso en Arbaro”からursoをaproに変更した替え歌。池田E会の狂言「二人大名(Du Sinjoroj)」(狂言記巻4の10)左京:島谷剛、右京:岩田好兼、下京の者:近江の森均さん。

終了後、飲み会組と喫茶組にわかれて自由bankedoとなった。 [←島谷剛]



写真:山野敏夫

大阪

12月14日(土)AAホール(堺筋ビル5階)において、大阪E会・堺E会・富田林E会・奈良E会・和歌山E会が合同ザメンホフ祭を行った。参加者はamikumuで藤井由美子さんに連絡してきたフランス人のAdrien LemaireさんとJimmy Crequerさんを含め24人。

開会宣言の後、初めての試みとして、YouTubeから“La Espero”をPCに取り入れ、プロジェクタで投影して、歌詞と曲を流した。各ロンドがだしものを披露。途中、本の紹介と休憩をはさんだ。だしものは、大阪:折り紙で折る五角形の星型入れ物の作り方指導(佐々泰弘さん)和歌山:エスペラント日本語辞典電子版の解説(福本博次さん)富田林:間違えやすい漢字の書き順クイズ、堺:タイプミスを見つけて文章を正しくするクイズなど(南山典生さん)奈良:詳しい自己紹介と続き、堺E会の寺島2020.2

俊穂さんは自著“Hannah Arendt”を紹介した。

終了後、すぐ近くのイタリアレストランで、飲み放題の「忘年会」(8人参加)と、折りしも行われていた「御堂筋と中之島のイルミネーション鑑賞」(7人参加)に分かれてそれぞれの時間を楽しんだ。(写真はp.19) [←田熊 健二]

高槻

12月8日(日)高槻現代劇場で高槻E会・枚方E会・茨木E会がザメンホフ祭を行った。参加者は11人。

まず12時から昼食会。13時から予定されたプログラムに入った。

高槻E会からは、浮田政治さんがスライドを使って第104回世界エスペラント大会参加報告、中津正徳さんがカラオケCDを使って「リンゴの唄」をエスペラントで。高橋晋さんが「エスペラント訳万葉集について」をテーマに話した。

堀田有里さんによる本の紹介、上月富佐子さんの南京玉すだれをはさんで、枚方E会から那須和宏さんが「Kindleで見つけたエスペラント本」、堀田裕彦さんが「サブカルチャー作品でもエスペラント語歌詞」を、いずれもスライドを使って紹介した。

茨木E会からは山崎隆三さんがやはりスライドを使って「エスペラントと聴力老化対策」をテーマに話した。(写真はp.19) [←浮田政治]

宇治

11月30日(土)の13時半から南宇治コミュニティセンターで近江E会・京都E会・宇治城陽E会合同のエスペラント祭が開かれた。プログラムは、京都E会のFM放送、立命館学生グループの歌、クイズ:第二回宇治検定試験(エスペラント版)、稲垣裕彦さんのお話「大本とエスペラントと私」など。参加者は1人の不在参加を含めて19人。

今年6月に宇治城陽E会が担当した関西大会の剰余金の一部を使い、クイズの賞品として当日のみ使用可能な図書券を発行した。このためもあってか予想を上回る本の売り上げがあった。(写真はp.19)

[←蒲 豊彦]

福井

12月8日(日)の14時から17時まで、福井E会のザメンホフ祭が福井市順化公民館で行われた。参加者12人。“La Espero”を歌った後、E訳「男

はつらいよ」を練習した。写真撮影の後、ミニ・スピーチに移り、各人が数分前後、エスペラントで近況報告や関心事を話し、その内容に関して日本語でみんなで語り合った。またたく間に時間が過ぎ、最後に委託販売図書の購入に30分ほど時間をとって終わった。

その後、18時から居酒屋で11人が参加して忘年会が行われた。(写真は p.19) [←北川 昭二]

名古屋

12月14日(土)、名古屋エスペラントセンターが「えほんのもり」(愛知県岩倉市)でザメンホフ祭を開催した。15時半から17時半、会費1000円、参加32人、司会進行は山田義さんと伊藤順子さん。

前半は、オカリナ四重奏団ボーネ・アミーケによる演奏会から開始。大小さまざまなオカリナやピアノの組み合わせで、「アビニヨンの橋の上で」、「くるみ割り人形」、「宇宙戦艦ヤマト」など多彩な楽曲を演奏。同日同時時間帯にザメンホフ祭を開催のオーストラリア・シドニー(名古屋の姉妹都市)のE会にもスカイプで中継された。演奏ののち、シドニーと名古屋との交流の場を設け、相互紹介や、2020年日本エスペラント大会への参加の呼び掛けや表明があった。つづいて、「Esperanto estas la lingvo por ni!」の歌詞の背景の説明ののち、ボーネ・アミーケ伴奏で全員合唱。

後半は、ボスニア・ヘルツェゴビナ史の研究者、清水美穂さんが「エスペランティストを探して」と題して講演。旧ユーゴスラヴィア時代から内戦期そして現在に至る、知られざるエスペラント運動の消長や、現地でのエスペラントの意味など、取材した成果をクイズをまじえて語った。

「えほんのもり」の運営者でもある伊藤順子さん作の絵本『しっぽがわらう』を、中山昭子さんが飛び入りで詳しく紹介、「本の日」らしい盛り上がり。演奏者・講師などに赤いカーネーションが配布され、彩り豊かにしめくられた。

その後の夕食会(参加費は別途4500円、参加27人)は日本料理店「松月」にて行った。(写真は p.19) [←堀田 裕彦]

福井国際フェスティバルに参加

10月27日(日)10:00～16:00、「福井国際フェスティバル2019」が県立福井国際交流会館で行われ、福井E会もブース出展で参加した。来訪者は初の40人となった。話を聞いてくれた人には日本エスペラント協会発行の『通い合う地球のことば 国際語エスペラント』の冊子を渡した。本会会員出席は7人。 [←北川 昭二]

スティバル2019」が県立福井国際交流会館で行われ、福井E会もブース出展で参加した。来訪者は初の40人となった。話を聞いてくれた人には日本エスペラント協会発行の『通い合う地球のことば 国際語エスペラント』の冊子を渡した。本会会員出席は7人。 [←北川 昭二]



スカウトの行事に参加

スカウトエスペラント連盟日本支部(SEL-JP)がJOTA/JOTI2019(10月18日～20日)でのIRCチャネル(chat.scoutlink.net)に参加した。

JOTA/JOTIは、ボーイスカウトの毎年10月第3週の恒例行事で、通信術で交流をする行事のひとつ。古くはアマチュア無線のJOTA(ジャンボリー・オン・ジ・エア)に始まり、その後インターネットのJOTI(ジャンボリー・オン・ジ・インターネット)をあわせて、JOTA/JOTIとなった。SEL-JPから、JOTIには10年以上継続参加協力をしている。

[←堀田 裕彦]

ロンドの近況

福岡エスペラント会

毎月初心者向け一日講座を開いている。12月は17日(火)にアクロス福岡の「こくさいひろば」で講座を持った。参加者は3人、講師は武藤たつこさん。「50 Fabloj de Ezopo」を教材に使っている。

[←武藤 たつこ]

訃報: 三澤 一弘さん

12月18日死去、74歳。豊中エスペラント会会員。様々な言語に詳しく、多言語のあいさつを集めたり、エスペラント文の「色付け」読解法を開発していた。「聖書を読む会」の常連で、ヘブライ語原文による資料を使って解説することもあった。

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros nomon de legomo.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de februaro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4		5		6	7
								*
8	*				9	10		
11				12			13	
		14	15		*			
16	17		*					
18			19	20		21		
					*			
	22	23				24		
						*		
25			26		27			28
	*							
29			30					

Horizontale: 1. La ~o estas sur antaŭlasta silabo en Esperanto.(x) 6. Gramatika finaĵo de verbo kondicionala.(x) 8. Trinkaĵo farita el tritiko kaj hordeo kaj lupolo.(x) 9. Ĝis ~vido!(x) 11. Polpo ne havas ~ojn.(x) 12. Aparato, kiu donas mallarĝan kaj intensan lumradion.(x) 14. Klara kaj senduba.(x) 16. Perdinta normalan funkcion de cerbo kaj muskolo pro alkoholo.(x) 18. Kiu ~ riskas, tiu ~ gajnas.(x) 19. Usain Bolt starigis ~on en kurado.(x) 22. Nomo de la lasta litero en la alfabeto.(x) 24. Juĝu homon ne per vortoj, sed per ~o.(x) 25. En aŭtuno ~oj de ginko fariĝas flavaj.(x) 27. Granda fabriko, kiu produktas metalon.(x) 29. Interne de.(x) 30. Japana luktarto.(x)

2020.2

Vertikale: 1. Forta antipatio pro malagrabla eco.(x) 2. La patrino ~is la vangon de la infano.(x) 3. Restanta, alia.(x) 4. Kvin-ena mon~o havas truon.(x) 5. *Zamenhof* ~is multajn literaturajn verkojn.(x) 7. Destino.(x) 10. Verko esprimanta la pensojn de la aŭtoro.(x) 12. Pronomo vira.(x) 13. "Ĵulo" estas unuo de ~o.(x) 15. ~a pavo estas pli bela ol ina pavo.(x) 17. Necesigi.(x) 20. Sufikso signifanta lokon.(x) 21. Izolita loko kun fonto kaj verdaĵoj en dezerto. 23. Hirundo estas pli rapida ~ pasero.(x) 25. Fabela estaĵo homo-simila.(x) 26. Gramatika finaĵo de preterita verbo.(x) 27. Sufikso kun nedifinita signifo.(x) 28. Mi kaj vi, mi kaj ili.

La solvo al la decembra enigmo: **TAKSIO**

La ĝustan solvon donis 15 legantoj:

中村 文雄、水渡 篤子、濱田 國貞、sayuri、CA

松川 まきこ

TADA

前藤 寛

山野 敏夫

Grebo

西 千寿子

本田 照美

にし のりこ

平井 倭佐子

Kacu

M	E	N	S	O	G		I	E
O	K	U	P		R	O	S	T
N		D	E	S	E	R	T	
A	V		G	E	N	T		R
T		K	U	N		O	L	E
	S	A	L		E	D	U	K
T	U	N		U		O		T
A	R	K	I	T	E	K	T	
G		R		A		S	E	P

楽しい作文教室 (102) 成績

9 人の方から応募がありました。() 内は留意事項です。

うん、良いね : CA、Ivajo (④ kredi)、

Celejo (④ paloris)。

良いね : Eiko (① nutradondon)、Ĉielo (① 対格?)、

AG、ikona (① 対格?)、Haveno (① kokidon)。

もう一息 : Drako (① bredadon、④ pensita)。

キラリ賞 : AG (④)、Ivajo (③)、Haveno (③)。

ザメンホフ 祭の写真

名古屋



福井

宇治



写真：安藤 潮

高槻



大阪



楽しい作文教室 4月号課題

(2月20日締切)

- ①各グループは会員 10 人当たり 1 名の代議員を選出する。
- ②すべての会員には投票する権利がある。
- ③議長は入会者のリストを求めた。
- ④何人かは会員名簿に登録されていなかった。
(ヒント) 代議員 delegito、投票する baloti、登録する registri. po, el, peti を調べましょう。
日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先：

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811

塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG 事務局だより

★関西地方のザメンホフ祭は、運動欄で報告されているとおり、5 会場で開催され、延 91 人が参加しました。

★すべての会場で書籍や CD が販売されました。神戸会場で 37,604 円、高槻会場で 26,744 円、池田会場で 24,387 円、大阪会場で 23,974 円、宇治会場で 16,650 円、合計では 129,359 円の売上がありました。

KLEG 後援会へのご寄付

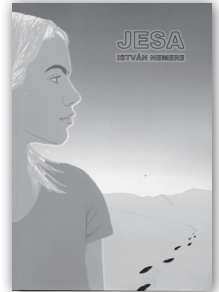
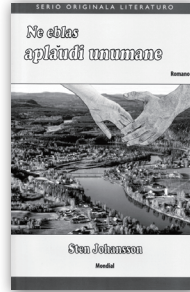
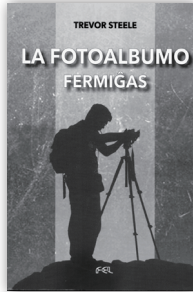
(2019 年 12 月、敬称略)

匿名 10,000 円

江川治邦 3,000 円

中津正徳 1,680 円

ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

La legisto 1500 円
恋する女性のために本を朗読する少年。失踪した彼女が隠していた秘密とは……。ベルンハルト・シュリンクの『朗読者』。A5判、117p.

Kuru, knabo, kuru 1900 円
映画「ふたつの名前を持つ少年」の原作、ウーリー・オルレブの「走れ、走って逃げろ」。迫害を逃れた少年は記憶と片腕を失う。B5判、136p.

La fotoalbumo fermiĝas 900 円
—Apendico al fotoalbumo vol.1 k vol. 2. 書き綴られる O'Shea 家の人びとの歩み。Trevor Steele の最新作。A5判、77p.

Ne eblas aplaudi unumane 2400 円
生粋のスウェーデン人と中東にルーツをもつスウェーデン人が家族となって……。Sten Johansson の最新作。A5判、161p.

Jesa 1200 円
イエスが女性になってこの世界に復活したら？
イシュトヴァン・ネメレによる小説の新版(初版は2009年発行)。A5判、192p.

Ĉasisto de sonĝoj 1200 円
人気作家 Julian Modest の最新刊。表題作をはじめ "Fideleco", "Neordinara propono", "Enigma silueto" など 27 編の短編を収録。A5判、108p.

La verda koro 1000 円
Julio Baghy によるやさしい読み物(第7版)。「La kurso», "El la taglibro de Marja" など 11 の短編。B5判、65p.

Ok noveloj 1900 円

ポーランド作家の翻訳小説集。「クオ・ワディス」のシェンケヴィチ、「ファラオ」のプルス、他にオルジェシュコワなど。B5判、162p.

★ ザメンホフに親しむ ★

Ekzercoj de Zamenhof 300 円
「エスペラント基本文例集」。ザメンホフの "Ekzercoj" と "La Feino" を初心者のために再編集。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia 600 円

ザメンホフによるエスペラントの原点を示す論文。
国際共通語の思想 1500 円
水野義明編訳。ザメンホフの主要論文と大会演説を収録。

★ 再入荷(一部価格を変更) ★

Ĉu ŝi mortu trafike? 1400 円

La granda Meaulnes 600 円

Kompreni 800 円

La lando de la blinduloj 400 円

La postdomo 1200 円

Victoria 300 円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ p.13 平忠度の和歌「行き暮れて～」の本歌は、『拾遺集』にある藤原公任の「春きてぞ人もとひける山里は花こそ宿のあるじなりけれ」です。(島谷剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共
本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話(0957)43-4352
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷拳子方 電話(088)688-1098